

2020年5月26日(火)	国崎	ウタセ真鯛	功成丸	ツレと	
中潮:旧4/4	満潮	07:09(193cm)	干潮	14:04(19cm)	満潮 20:50(190cm) 鳥羽
真史	マダイ	4尾(38cm・30cm・ヤキダイサイズ)			
ツレ	マダイ	2尾(ヤキダイサイズ)	イシダイ	47cm	1尾

11時30分 集合  
 12時00分 出船  
 14時04分 干潮 19cm : 鳥羽  
 18時50分 沖上がり

【料金】 乗り合い 12,000円 氷付き  
 釣り座は抽選



<アジ2尾、ヤキダイ1尾は船長からもらった>

### 【仕掛け】

電動リール 竿受け エビ用網

錘 30号~60号 (10号20号も持参すべき)

‘かんこ’から魚をすくうためのタモ 魚を締めるためにゴム手袋、アイスピック

竿 ウタセ真鯛用(真史) マダイ用竿(ツレ)

自作仕掛け

ハリス5号160cm 幹糸5号 枝間200cm 伊勢尼12号3本鉤 捨て糸3号50cm

※前回、船長より「ハリスは1mで十分だろう」と言われた。

※乗船したベテランさんにハリスの長さを尋ねたところ、

「今日は潮が動いていないと船長が言うから、ハリスは1.2mにした。」とのこと。

この方の釣果は、良型4枚とヤキダイ1枚とのことだった。

※「春は潮が速いから長めのハリス」と以前に乗っていた船長から教えてもらったことがある。

※今回は、作り置きしてあったハリス160cm、枝間200cmのものを使用することにした。

※釣り終えてから、ツレがハリスが長くて扱いにくいと言った。

○次回、ハリスの長さは100cmか120cmで試してみる。ハリス・幹糸とも6号とする。

○枝間は、ハリスが100cmなら枝間は120cm、ハリスが120cmなら枝間は140cmでどうだろうか。

### 【様子】

○新型コロナウイルスが収束に向かい、現在、県外への移動は自粛要請されている。県内ならOKということなので、出かけることにした。やっと釣りに行ける。1週間前に予約した。

○当日のお客さんは6名、ソーシャルディスタンスが十分に取れる。

○釣り座の抽選は2番くじ。右舷銅に並んで釣ることにした。

○天気は曇りのち雨、風は微風。波はほとんどなし。

○酔い止めは、港に着いてすぐに(10時30分に)飲んだ。当然、酔わなかった。

○初め、船の下に入る向きに仕掛けが流れた。途中から船から遠ざかる向きに流れた。

○「潮は流れていない。水深40m。底から20mまでを狙ってください。錘は自分のやりやすいおもりでどう

ぞ」とアナウンスがあった。

- おもりは30号をセットしてスタートした。仕掛けは若干、船の下に入っていく状況だが、流されていくということはない。
- ツレが着底と同時に掛けた。ヤキダイだった。
- 自分は着底後、仕掛けをふかせておく。当たりがなければ、ゆっくり巻き上げて、待ち、再び、落とす。エサ取りらしき当たりがあるが、掛からない。
- 船長から、「エサ取りのいるところばかりで釣らずにもっと上の方を狙って」とアドバイス。
- このころ、一番下のハリはエサ取りに取られ、上2つのハリが残るといふ場所(棚:水深28m)で釣っていたので、次のように釣ることにした。
- 自分のリールでは、水深は33m、棚は底から5m(水深28m)。一番下のハリにもエサ取りに喰わせない方がいいと思い、水深27mから上を狙うことにした。「魚は落ちてくるものに興味を示すという習性があるから、上から4mずつ落としてみよう。そのために、まず4mずつゆっくり巻いて上げてみよう。」と考えた。つまり、「水深27mから23mまでゆっくり巻いて待つ。23mから19mまでゆっくり巻いて待つ。19mから23mまで落として待つ、23mから27mまで落として待つ」を繰り返そう。
- “ゆっくり巻く”とは電動リールで一番遅いスピードである。これ以上ゆっくりにすると止まってしまうというスピードである。
- 水深27mから2~3m巻き上げてきたところでヒット。ヤキダイだった。
- 水深27mから3~4m巻き上げてきたところでまたヒット。良型だった(38cm)。
- 水深27mから3~4m巻き上げてきたところでまたヒット。引きが強い。かなり大型のようだ。船長がタモ持って隣で待機している。あと5~6m。ふっと軽くなった。バレてしまった。残念。鉤先が折れていた。ハリが折れるということがあるのだとびっくりした。
- 落とし込んでいくよりも、巻き上げの方が良かった。落とし込みでは当たりがなかった。
- ツレもこの釣り方で1尾釣った。巻き上げでヒットした。
- 仕掛けを直して再投入する頃には潮の状況が変わっていた。潮が流れ出した。この釣り方では当たらなくなった。
- しばらくしてトイレ休憩をしようと、少しふかせぎみにして置き竿にした。当たりらしきものがあつたので合わせてみればヒット。やや大きめだった(30cm)。
- 更に潮がきいてきた。おもり30号でおぼせ釣りができるようになった。しかし、当たりがない。
- 撒かれたエビと、仕掛けが同調してないのではないかと考えた。おもりを40号に代えた。着底後、糸をふかせてみたらヒット。マダイだった。
- おもりを代えたことにより、仕掛けが落ちる場所が変わったのであろう。ツレに教えに行った。
- 二人とも40号に替え、50号に替えて釣った。
- ツレが良型を掛けた。ドラッグが滑る。「ドラッグが緩いのかな」とつぶやいたので、少し締めたらと伝えた。少し締めたがそれでもドラッグが滑る。「まだ緩いのかな」とつぶやいたので、「ドラッグ調整はしてあつたんやろ」と伝えると「そうだ」とのこと。「そのまま、やりとりした方がいい」と伝えた。やっと上がってきた。良型のインダイだった。47cmだった。
- この間、自分には当たりはなかった。
- 6時50分納竿となった。

#### 【ツレ:インダイを釣ったときの釣り方】

- 着底後、仕掛けをふかして釣っていた。これまでよりふかす量を多くしたら当たりがあつた。これまでではふかす量が少なかったと思った。ふかす量を多くして再度釣ることにした。するとヒット。この釣り方でインダイを釣った。

○ふかす量が少ないと潮ですぐにハリスがピンと張られしまう。ふかす量を多くすると、エビがふわっと泳いでいる時間が長くなるというイメージかなと思う。

### 【釣り方1】

※餌取りが多いとき、タイが上の方に浮いているとき、餌取りのいる層から上を狙うとき

※潮が動いていないときは、餌取りが多く、タイは餌取りより上に浮いてくることが多い。また、潮が動いていないときは、餌を動かすことで喰いが立つ。

○棚まで「4mずつ落としては待つ」を繰り返す。

○棚から「4mずつ巻き上げては待つ」を繰り返す。

○棚とは、一番下のハリはエサ取りに取られ、上2つのハリが残るという場所。ただし、一番下のハリも餌取りに取られない方が良いので、棚より1m上と考える方法もある。

○巻き上げるときのスピードは、電動リールで一番遅いスピードで、これ以上ゆっくりにすると止まってしまうというスピードである。

○4mずつの理由は枝間が2mだから、一番上のハリと一番下のハリでは4mの差がある。一番上と一番下のハリの差が4mだから、5mずつ巻き上げる(落とし込む)ということも考えられる。

### 【釣り方2】

※潮がゆるくて、おぼせ釣りやシンダチ釣りができないとき、すなわち、おもりが潮で流されないとき

◎おもりを底に付けて糸ふけを出す。当たりがなければ、5mくらい巻き上げて再び落として糸ふけを作る。

○以前に乗っていた船の船長から、「おもりが底をたたくのは良くない。おもりが底をたたかないように、少し上げておくか、おもりを底に落として糸ふけを出しておく。」と教えてもらったことがある。

○これまでの経験から、おもりを底から上げておくよりも、おもりを底に落として糸ふけを出しておいた方が釣果が出たように思う。

○竿先から出た糸ふけは、仕掛けが潮に引っ張られることによって、だんだんと張ってくる。この間、餌のエビは自由に泳いでいたり、海中で漂っていたりするのだろう。この自然な感じがタイに違和感を与えないのだと思う。ただし、当りは分からない、分かりづらい。

◎極めて軽いおもりを使って、ゆっくり落とす。おもりでリールが回転しないので、ラインを手で引き出しながら落としていく。事前に重いおもりで水深を確かめておく。(今回は30号より軽いおもりを持参しなかったため、できなかった。)

